

総説

地域で暮らす要介護者を対象としたスピリチュアリティを組み入れたケアプランの意義と課題

岡本 宣雄*¹

要 約

介護支援専門員は、地域で暮らす要介護高齢者を対象とした居宅介護支援において、ケアマネジメントの目的にある Quality of Life(QOL)の向上を意識し支援している。このQOLを構成する要素に、スピリチュアリティがあり、この側面に考慮したケアプランが作成される必要がある。高齢者のスピリチュアリティに関する先行研究から、居宅サービス計画に組み入れる高齢者のスピリチュアリティは、日常でのスピリチュアルな体験(Daily Spiritual Experiences : DSE)であった。すなわち、これらスピリチュアリティの内容は、自己・他者(友人、親戚、家族等)・自然・超越なるもの(神や仏・先祖・子孫等)との関係性となつたり感、宗教的な習慣・慣習、存在の根拠(よりどころ)、意味探究、価値・信念・希望、死生観等を含むものであった。スピリチュアリティを組み入れた居宅サービス計画作成に向けては、介護支援専門員がもつスピリチュアリティへの意識の醸養、主観的な特徴や達成度を評価すること、存在論的思考によるケアプランの作成に向けた課題がある。

1. 緒言

1.1 研究の背景

高齢期の課題に向き合うことは、死の問題をも含め、自分の人生をどのようにまとめ上げていくかという、個別的で普遍的、かつ哲学的な問題を含んでいる。近年、介護の必要な地域高齢者に対し、重層的な介護保険の介護サービスが提供されている。そこでは、身体的な機能の維持・回復や社会的活動という、生産的で能動的な側面が強調される傾向がある。社会福祉実践の目標が「生きがい」や「自己実現」の支援であるといわれるなか、支援の基盤である高齢者の人間固有の存在の意味や価値にかかわるスピリチュアルな課題を、福祉従事者たちが捉えきれずにいるという現状がある(ER・カンダ, LD・ファーマン)¹⁾。

要介護高齢者が、住み慣れた自宅で暮らしと生活が継続できるように、自らの能力と意欲を活用し、生活上の課題を解決する、そのための目標達成の実現を支援するために、介護支援専門員により、「ケアプラン」すなわち、「居宅サービス計画」が作成

されている。介護支援専門員によるケアプラン作成は、高齢者を介護サービスにつなげるケアマネジメントにおける中核的な業務である²⁾。そして、介護支援専門員が、在宅で暮らす要介護高齢者に対し作成する居宅サービス計画の水準や質は、高齢者の生活や人生に大きな影響を与える。スピリチュアリティは、宗教とは直接的に同義でなく、これを含むかたちで、人間に生来的にある人間を構成する側面であり、人間の超越的なものを求める特質、そして、人生の様々な経験を通して自らの生きる意味を求める特質といえることができる(ER・カンダ, LD・ファーマン)¹⁾。スピリチュアリティは、高齢者の生活や人生の基盤にあり、ケアプランが高齢者の固有の「生きがい」や「自己実現」に向けた支援計画であるとするならば、これを立案する際、人間の内面性や価値観を含有するスピリチュアルな視点は不可欠であると考える。この観点から、ケアプランの意義を考察するとき、実際の支援の現場では、介護支援専門員がケアプランを作成するにあたり、利用者の価値、信条、宗教、死生観等に関連するスピリチュアルな側

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先) 岡本宣雄 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学
E-mail : nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp

面の視点が欠落し、居宅サービス計画においてこれらが十分に反映されていないのではないだろうか。利用者のスピリチュアリティの内容とニーズを、ケアプラン全体に組み込み、実際の介入や実践につなげるケアプランの様式の開発とその計画の作成方法の提示は重要である。

1.2 スピリチュアリティに配慮したケアプランに関する先行研究

本稿で取り上げるケアプランは、居宅介護支援事業所の介護支援専門員が作成する「居宅サービス計画」を想定している。介護支援専門員によるケアプラン作成に関連する先行研究は、介護支援専門員の役割やケアマネジメント（居宅介護支援）の目的からケアプランの意義や内容を検証するもの^{3,4)}、介護支援専門員によるケアプラン作成の達成度の要因⁵⁾・実践要因⁶⁾・実践構造⁷⁾、対象別には、ショートステイ利用の高齢者⁸⁾、認知症高齢者⁹⁾、遷延性意識障害者¹⁰⁾がある。また、自立支援や生活継続等の高齢者ケアへの理念や視点を見据えた居宅サービス計画の検証するもの^{11,12)}、さらに、居宅サービス計画の作成手法を提示する研究がある¹³⁾。

介護支援専門員が作成するケアプランに特化し、スピリチュアリティの視点とその配慮した居宅サービス計画の作成の意義や実際について実践報告やこれを検証する研究は、日本ではほとんどみることができない。小原ら¹⁴⁾は、介護老人保健施設の入居者で、自力歩行が困難な要介護高齢者を対象に「生きる意味・目的・いまを支えるもの」について、ライフストーリーの手法を用い調査と分析を行い、地域高齢者のスピリチュアリティ要素との比較において、本施設の高齢者のスピリチュアリティについて考察をしている。しかし、ここには、施設サービス計画や居宅サービス計画の言及はない。見平¹⁵⁾は、施設ケアマネジメントのあり方に論じている。そのなかで、介護保険制度において、「尊厳」「自立」が常に理念として強調されるなか、「ケアマネジメントからスピリチュアル（spiritual）の視点が欠落することは、高齢者ケアの根源を体現する援助にならないと考える」（p.109）と述べている。ここでは、居宅や施設を問わず、高齢者の支援に向けたケアマネジメントにスピリチュアルな視点の必要性が言及されている。このように、スピリチュアリティに配慮したケアプランに関する研究が少ないなか、鐘ヶ江ら¹⁶⁾は、日本語版 Care Planning Assessment Tool (CPAT) を作成するための信頼性・妥当性の検討の研究で、この構成の大項目（8項目）の「社会的交流」の項目に「創造的・スピリチュアルなアクティビティ」を位置づけ、質問項目を設定し、高

齢者ケアや認知症ケアにおけるスピリチュアリティの重要性を述べている。この日本版 CPAT 評価と実用の研究は、ケアプランの作成の過程において、スピリチュアリティの視点と内容が加味されることを示している。

1.3 本研究の目的

本研究は、高齢者を対象としたケアマネジメントにおいて、スピリチュアルな側面を考慮し、ケアプラン（支援計画）の作成を可能とする計画の様式を作成し、その活用方法を提示することにある。そこで、本稿の目的は、居宅介護支援事業所等の介護支援専門員が立案する、高齢者に向けたケアプランである「居宅サービス計画」を想定し、この支援計画に盛り込まれ、表現されるスピリチュアリティの内容について検討し、居宅サービス計画に利用者のスピリチュアルな側面を考慮し組み入れる際の課題を提示することにある。

2. 方法

本稿における研究方法は、文献研究である。国内の高齢者支援に向けたケアマネジメントに関する文献より、その目的について検証する。主に、ケアマネジメントにおける支援計画（プランニング）、介護支援専門員が作成する「居宅サービス計画」、そして、スピリチュアリティの内容として、「高齢者のスピリチュアリティ」および「日常のスピリチュアルな体験」（DSE：Daily Spiritual Experiences）に関する文献を取り上げる。

3. 結果および考察

3.1 ケアマネジメントの目的とスピリチュアリティ

3.1.1 ケアマネジメントの目的：QOLの向上

わが国において、介護保険のもとでは、居宅介護支援をケアマネジメントとするようになった¹⁷⁾。ケアマネジメントの主要な目的に利用者の Quality of Life (QOL) の向上がある。白澤¹⁷⁾は、ケアマネジメントの目的について、第一に、生活モデルのもと、利用者の地域生活を支援すること、第二に、利用者の生活の質（QOL）をいかに高めるか、そして、第三に、ケアマネジメントでの付帯目的（コミュニティケアの推進、医療や介護の財政高騰の抑制）を取り上げている。

現場の介護支援専門員の多くが、居宅サービス計画を作成する際に参考にする『新・居宅サービス計画ガイドライン』¹⁸⁾は、ケアマネジメントの目的について支援の観点から説明しており、それによると、第一には、要介護者の「自立」「QOLの向上」の支

援、第二には、要介護者の「生活全体」の支援、そして第三には、要介護者の「コミュニティ・ケア」の支援が挙げられている。特に、第一の「自立」「QOLの向上」では、要介護者の自立を「自らの責任で自らの生活設計をすること」と表明し、この自立は、ADL以外の面も含むとしている。これを踏まえ、ケアマネジメントは、単に要介護者のADLを改善することだけでなく、生活の質（QOL）を高めることをねらいとしているとし、ケアマネジメントの主要な目的にQOLの向上のもと、居宅サービス計画が作成されると述べている。

3.2.2 QOLとスピリチュアリティ

QOLは、「いかに長く生きるか」よりも、「いかによりよく生きるか」に重点を置いた考え方である。QOLは、「Life」の解釈により、「生命の質」「人生の質」「生活の質」と表現される。社会福祉の領域では、生活支援の観点から「生活の質」と訳され使用されることが多い。そして、QOLは、全人的な（holistic）人間理解のもと、複数の領域、すなわち、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から構成され、主観的な特徴を有すると理解されている¹⁹⁾。

白澤¹⁷⁾は、ケアマネジメントの本質にかかわる、第二の、利用者のQOLの向上についての記述のなかで、QOLの学際的な研究の性格に触れ、WHOの健康の定義を基盤とした、QOLの考え方を提示している。すなわち、QOLが様々な領域：①身体面（体力・疲労等）、②心理面（肯定的な感情等）、③身辺自立の態度（移動等）、④社会関係（実際の社会的な支援等）、⑤環境（ヘルスケアへのアクセスしやすさ等）、⑥信条・スピリチュアリティ（人生の意義）から構成され、これらが相互に補完・重複し、かつ、主観的なものとしてある、ことを述べている（p.29）。ケアマネジメントの目的のひとつに利用者のQOLの向上があり、このQOLを構成する要素にスピリチュアリティが含まれている。

近年、QOLを構成する要素である、スピリチュアリティは、医療分野では、病院等の患者に対する緩和・ホスピスケア、福祉分野では、生活課題を抱える利用者へのソーシャルワークの場面で、全人的な人間理解における治療や支援の必要性により注目されている²⁰⁾。日本社会福祉士会は、2014年7月に国際ソーシャルワーカー連盟によって採択された「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」にあわせ、世界情勢も織り込み、2020年6月30日付で、「日本社会福祉士の倫理綱領」の改定を行った。本綱領は、「原理」の第6項に「全人的存在」を加え、「社会福祉士は、すべての人々を生物的、心理的、

社会的、文化的、スピリチュアルな側面からなる全人的な存在として認識する²¹⁾。」を規定している。

藤井¹⁹⁾は、学際的な死生学の立場から、スピリチュアリティが人間のもつ魂の領域であるとし、スピリチュアリティを、「人間存在に意味を与える根源的領域であり、同時に、人がその意味を見出していくために希求する、自己、他者、人間を超えるものとの関係性、またその機能と経験」（p.58）と定義している。そして、医療・福祉分野で、疾病や障がいを持った人のQOLを高めることが目標とされているなか、藤井¹⁹⁾は、QOLの意味について、「QOLの“Life”は、『生活』というより、生活を含むより根源的な『いのち』や『生き方そのもの（人生）』を含むと理解する」（p.99）とし、現在の健康関連QOL（Health-Related QOL）の下位概念としての「スピリチュアルQOL（スピリチュアルな領域におけるWell-being）」の議論のなかで、「QOL評価は、人が獲得した物質的側面や人生の表面的評価とその満足が基準となるのではなく、生き方や価値観そのものが問われ、その中で、見出したもの、あるいは見出していくプロセスでの充実感によってなされる」（p.101）と述べている。ここから、スピリチュアルな側面が、「生き方」や「価値観」を形成する、人のいのちと生き方を含む特質であり、医療・福祉分野での実践において、患者や利用者のQOLを考慮した支援をするために、QOLの中核となるスピリチュアルな側面を理解し、評価し、支援していくことが必要であることが分かる。

本稿では、スピリチュアリティがもつ、人間存在の本質、意味探究の機能、そして、関係性を有する概念、これらの特徴を捉え、「スピリチュアリティとは、人間の普遍的な特質であり、自己、他者、超越的なものとの関係のなかで、生きる意味を見出す生の側面である²²⁾」（p.33）と定義し、議論を進めていく。

スピリチュアリティは、人が生きる時、多様な関係性のなかで、人生の出来事や経験をいかに意味付け、それを判断し、行動していくか、それらの基準となる「価値」（何を大切に、よりよく生きるか）に関連する人間の特質であるといえる。このことから、介護支援専門員は、利用者のQOLの向上を目指しケアマネジメントを実施する際に、高齢者のスピリチュアリティを考慮し、アセスメントやケアプランの作成を行うことが重要であると考えられる。

3.2 居宅サービス計画におけるスピリチュアリティの内容と視点

3.2.1 ケアプランにおけるスピリチュアリティの内容

(1) 日常のスピリチュアルな体験 (DSE)

本項では、居宅サービス計画に記載するスピリチュアリティの内容を検討する。居宅サービス計画の対象は、在宅で生活を営む要介護高齢者である。従って、ケアプランにおけるスピリチュアリティは、高齢者が日常で体験するスピリチュアリティが主な内容となると考える。つまり、日常性の観点から高齢者のスピリチュアリティをアセスメントし、ケアプランを作成することが必要となる。

スピリチュアリティの日常性に焦点を当てた研究がある。そのなかで、Underwood & Teresi²³⁾は、人が日常で体験するスピリチュアリティに注目し考察し、DSE (Daily Spiritual Experiences) の意義と内容について提示している。そして、これに関する尺度：DSES (Daily Spiritual Experiences Scale) を開発している。DSESは、特定の宗教の信条 (belief), 振る舞い (behaviors) よりもむしろ、普通の人々が日常の暮らしを営むうえで、超越者 (transcendence) (神, 神聖なもの), 生活上での超越者との相互関係, あるいは、関わり合いの知覚, また、日常生活のただなかでのスピリチュアルな感覚や内的体験を測定する。DSESの質問事項とその解釈に必要な次の用語を説明している。一般的な論点 (general issue) に関わる用語として、「神」(God), 「感覚」(feeling) と「体験」(experiencing) を挙げている。また、質問項目に関連する用語として、「つながり」(connection), 「喜び」(joy) と「自己を超えた意識」(transcendent sense of self), 「力と慰め」(strength and comfort), 「平和」(peace), 「神からの助け」(divine help), 「神の導き」(divine guidance), 「神の愛の知覚」(perceptions of divine love), 「畏れ」(awe), 「感謝」(thankfulness) と

「真価を認める」(appreciation), 「憐み深い愛」(compassion love), 「結合と親密さ」(union and closeness) を取り上げている (表1)。

以上、日常のスピリチュアルな体験 (DSE) の概念とこれを説明する項目は、居宅介護支援事業所の介護支援専門員がケアマネジメントの過程で、地域で暮らす要介護者を対象とした、これら的高齢者の普段の生活を意識した、スピリチュアリティを考慮したケアプランを作成する際に、日常で体験するスピリチュアリティの内容を考慮し、記述するうえで参考となり有益である。

(2) 高齢者が日常で体験するスピリチュアリティ

居宅サービス計画等のケアプラン作成において考慮される高齢者のスピリチュアリティの内容については、直接的な先行研究はないが、地域で生活を営む高齢者を対象としたスピリチュアリティの研究が参考となる。

竹田ら²⁴⁾は、高齢者の健康や発達課題を考えるうえで、スピリチュアリティの重要性を指摘している。そして、日本人高齢者のスピリチュアリティの検討を行い、6つの概念：「生きる意味・目的」「死と死に行くことへの態度」「自己超越」「他者との調和」「よりどころ」「自然との融和」から構成されていることを示している。そして、これら6つの因子から成る「高齢者版スピリチュアリティ健康尺度」の構成概念妥当性を検討し確認している。また、これらスピリチュアリティとQOLの因果関係についても示している。

三澤ら²⁵⁾は、「スピリチュアリティの本質は…人間に普遍的に存在する。…自己を超越した諸次元とのつながりを実感することにより、生きる意味や目的の根拠を支える」(p.171) とし、地域高齢者のスピリチュアリティ評定尺度の開発を行い、質問紙調査の結果からスピリチュアリティの構成概念の妥当性と信頼性を検証している。そして、尺度の概念モデルの分析から、地域高齢者のスピリチュアリティ

表1 DSESの解釈上の論点と質問項目に関連する用語

全般的な論点	質問項目に関連する用語		
神 感覚 体験	つながり	神からの助け	真価を認める
	喜び	神の導き	憐み深い愛
	自己を超えた意識	神の愛の感覚	結合と親密さ
	力と慰め	畏れ	—————
	平和	感謝	—————

Underwood & Teresi²³⁾ を参考に筆者作成

の特徴を表す5因子：「乗り越えた道の確認」「他者とのつながり」「超越的なものへの関心」「自己存在の探求」「未来への心の準備」を導き出している。

岡本²²⁾は、要介護高齢者が日常で体験するスピリチュアリティを、質的調査とその分析により、6つのカテゴリー：「人生の出来事を乗り越えてきた」「ただ平凡に人間らしく生きたい」「超越的なものとのつながり」「死に思いを馳せる」「有限な存在として生きる」「責任を果たして生きる」で表わしている。そして、調査結果の内容分析より、これらの日常のスピリチュアリティを説明する理論的枠組み「時間・関係・価値」を明示している。さらに、要介護の高齢者が日常で体験するスピリチュアリティを「日常的スピリチュアリティ」と命名し、「日常的スピリチュアリティとは、気が付かないほど近く、普通の生活にあって、人が時間的存在として生きるとき、超越的なもの、他者、自己との関係のなかで意味探究を促進する生の側面である」(p.141)と定義している。

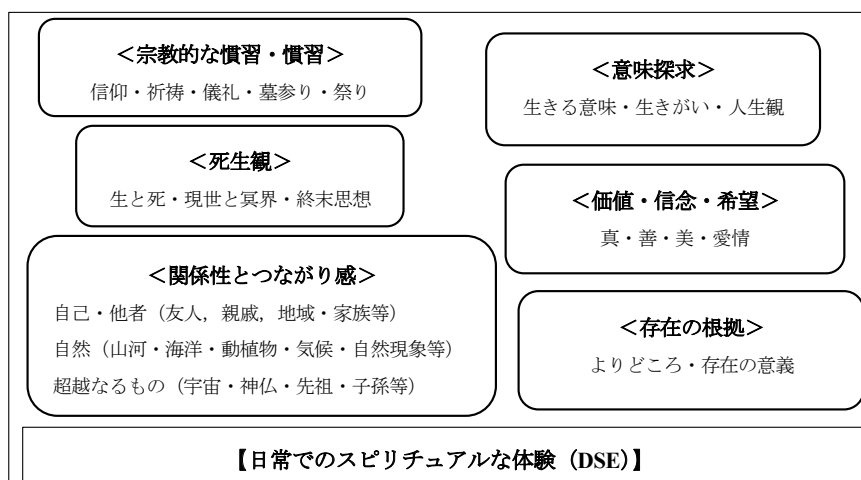
上記の研究者ら^{22,24,25)}の見解から、スピリチュアリティは、①時間の連続性のなかで生きる人間存在とその生き方が意識されている。過去では「乗り越えた道の確認」「人生の出来事を乗り越えてきた」、現在では、今の存在の在り様や生き方の内省を表現する「自己超越」「他者との調和」「ただ平凡に人間らしく生きたい」「有限な存在として生きる」、未来では、「死と死に行くことへの態度」「未来への心の準備」「責任を果たして生きる」がこのことを表している。②関係概念の特徴を有し、「自己」(究極の自分)、「他者」(家族、親戚、友人、地域等)、「超越するもの」(神仏、自然等を含む)とのつながり

のなかで体験される。特に、超越性の観点からは、宗教的な慣習、先祖や子孫への信仰、あるいは、有限な人間に対する死と死後の世界への希求(死生観)等まで及んでいる。③生きる意味に関連する概念であり、自己存在の意味探究する機能を有している。

「生きる意味・目的」「よりどころ」「自己存在の探求」は、人生の体験や出来事を意味付けて生きる人間の特質であり、価値や信念として理解することができる。

井上ら²⁶⁾は、高齢者への生活支援、また、日常でのスピリチュアルな体験(DSE)の観点から、居宅サービス計画の立案に盛り込むべき高齢者のスピリチュアリティの内容を、8項目に整理し、介護支援専門員がプラン策定にかかわる「重要度」と「支援度」に関する項目として用い、質問紙調査を実地している。これら8項目とは、1.利用者が日常生活で自然と関わること、2.利用者自身がこれからの生活の中に、楽しみや生きる希望を持つこと、3.利用者が他者(友人、親戚、家族等)や地域とのつながりをもつこと、4.利用者が先祖や子孫とのつながりをもつこと、5.利用者自身の死について、利用者と一緒に話をする事、6.利用者の「よりどころ」、7.利用者の宗教的な習慣・慣習、8.利用者の価値・信念、である。

以上の先行研究^{22,24-26)}より、高齢者が日常で体験するスピリチュアリティの内容が、自己・他者(友人、親戚、地域・家族等)・自然・超越なるもの(神仏・先祖・子孫等)との関係性とのつながり感、宗教的な習慣・慣習、存在の根拠(よりどころ)、意味探究、価値・信念・希望、死生観等を含み、そして、これらをケアプランに組み入れることの可能性が示唆さ



文献^{22,24-26)}を参考に筆者作成

図1 ケアプランに組み入れるスピリチュアリティの内容

れた(図1)。

3.3 居宅サービス計画にスピリチュアリティを組み入れる際の視点

居宅サービス計画を作成の対象は、介護サービス等を利用し、在宅で暮らす高齢者である。従って、居宅サービス計画に組み入れるスピリチュアリティは、上述した高齢者が日常で体験するスピリチュアリティの内容が想定された。それでは、実際に居宅サービス計画にスピリチュアリティを反映させる記述にはどのような視点が必要なのだろうか。

① QOL (生活の質) の構成要素であるスピリチュアリティ

介護保険法のケアマネジメント(居宅介護支援)では、高齢者の尊厳を踏まえた QOL の向上を目的に支援が展開される。利用者を全人的に理解する際に、QOL を構成するスピリチュアリティの視点は重要である¹⁹⁾。スピリチュアリティ(意味探究、価値・信条・宗教・死生観等)は、人間の普遍的特質であり、支援者は常に意識する必要がある。

② 日常の生活で体験するスピリチュアリティ

生死の危機や人生の岐路や窮状のなかで覚醒されるスピリチュアリティだけでなく、高齢者の日常性、すなわち、生活者としての日常の生活、平凡で代わり映えのないと思われる生活のなかで体験する日常的スピリチュアリティ²²⁾に焦点を当てる。

③ 「生きる意味」としてのスピリチュアリティ

人は生活上での体験や出来事、生活課題に遭遇したとき、それらに意味付けをする。高齢者の状況や日常生活で経験する出来事に含有する、生きる意味と意味探究のスピリチュアルニーズ²⁰⁾の把握は、望む生活や目標を明確化するために重要である。

④ ストレngthsとしてのスピリチュアリティ

スピリチュアリティを、単に治療を要する疾病や痛み(ペイン)として取り扱わず、むしろ、日常で人を活かすストレngths(強み)の側面と理解する²⁷⁾。従って、居宅サービス計画作成では、スピリチュアリティが利用者とその生活全体に影響を及ぼすことを想定し、これを強化(エンパワメント)するアプローチを見据える。

3.4 スピリチュアリティに配慮した居宅サービス計画作成上の課題

3.4.1 介護支援専門員がもつスピリチュアリティへの意識の醸養

介護支援専門員自身がスピリチュアリティを意識し、スピリチュアルな安寧(spiritual well-being)を有しているのか、そして、高齢者のスピリチュアルな側面や DSE を理解し、ケアプランを作成する必要性を認識できているのか、そして、介護支援専

門員が、ケアプランの作成を通し、高齢者に心の安らぎや安心を提供することに意義を見出しその可能性をどの程度に意識しているのか、介護支援専門員によるスピリチュアリティに関する理解の醸養、そのための福祉教育や研究が課題である。

3.4.2 介護支援専門員が作成する居宅サービス計画の記述内容

① 主観的な特徴を有するスピリチュアリティの記述の仕方

居宅サービス計画の作成は、介護保険のもとでの実施であり、これに基づく支援においてもサービスの標準化が求められる。この現状のもとでは、主観的な特徴を有するスピリチュアリティは、居宅サービス計画の項目として立てることに困難さがある。居宅サービス計画の目標は、行政の要請もあり、「評価できること」が推奨され、予測される効果を数値で表すことが多い。主観的な特徴や達成度を評価することに馴染まないスピリチュアリティの内容を、居宅サービス計画様式：第2表にある項目「生活全般の解決すべき課題」「目標(長期・短期)」「援助内容(サービス内容)」等に、いかに反映し記述していくのかは課題である。

② 存在論的思考によるケアプランの作成

介護保険のもとでは、社会政策の観点から、身体的(physical)ケアの側面からの「自立」が強調され¹⁵⁾、介護サービスが提供される現状にある。従って、居宅サービス計画作成においても、自立支援の促進のもと、居宅サービス計画様式：第2表：「生活全般の解決すべき課題」では「〇〇がしたい」(機能論的思考：行為の有無や達成の程度を評価する)「何ができるか」を強調し記述される傾向にある²⁸⁾。その一方で、スピリチュアリティは生きる意味、価値、信条等を内容に含有している。従って、居宅サービス計画の作成では、利用者が「〇〇でありたい」「どうありたいか」との、生の本質、人生の在り方、価値、死生観等に焦点化した存在論的思考のもと記述されることが重要であり、このことが課題である。

4. 結論

介護支援専門員は、居宅介護支援において、ケアマネジメントの目的にある QOL の向上を意識し支援している。この QOL を構成する要素に、スピリチュアリティがあり、この側面に考慮したケアプランが作成される必要がある。居宅サービス計画に組み入れる、高齢者のスピリチュアリティは、DSE であり、これらスピリチュアリティ内容は、超越なるものを含めた関係性に特徴付けられた意味探究、

価値, 信条, 宗教, 死生観等に関連する内容である。そして, スピリチュアリティに配慮した居宅サービス計画作成に向け, 介護支援専門員がもつスピリチュアリティへの意識の醸養, 主観的な特徴や達成度を評価すること, 存在論的思考によるケアプランの作成に向けた課題がある。

本稿は, 高齢者が日常で体験するスピリチュアリ

ティの内容の検討とケアプラン(居宅サービス計画)作成に向けての課題への指摘に留まった。今後, 本研究では, 様式作成に向けた具体的な様式と手法の提示に向け, ケアプランを立案する介護支援専門員自身がもつスピリチュアリティの意識の実態把握(調査)が重要であると考える。

謝 辞

本稿は, 日本老年社会学会第61回大会で報告したものを加筆・修正したものである。本研究は JSPS 科研費 17K04290 の助成を受けた。感謝申し上げます。

文 献

- 1) ER・カンダ, LD・ファーマン著, 木原活信, 中川吉晴, 藤井美和監訳: ソーシャルワークにおけるスピリチュアリティとは何か。ミネルヴァ書房, 京都, 2014.
- 2) 介護支援専門員実務研修テキスト作成委員会編: 7訂 介護支援専門員実務研修テキスト上巻。長寿社会開発センター, 東京, 2018.
- 3) 綾部明江: 要介護高齢者の在宅生活継続に関する影響要因とケアの視点。日本看護学会誌, 27(2), 43-52, 2007.
- 4) 大湾明美, 佐久川政吉, 上原綾子: ケアマネジメントへの不満を訴える事例の事例検討からのケアマネジャーの役割再考。沖縄県立看護大学紀要, (11), 25-30, 2010.
- 5) 綾部貴子, 岡田進一, 白澤政和: 介護支援専門員による居宅サービス計画作成の達成度に関連する要因: 介護支援専門員の特性と人的環境要因に焦点をあてて。日本在宅ケア学会誌, 16(1), 28-35, 2012.
- 6) 綾部貴子, 岡田進一, 所道彦, 白澤政和: 介護支援専門員による居宅サービス計画作成の実践とその関連要因: アセスメントにおける情報把握に焦点をあてて。生活科学研究誌, (13), 101-109, 2015.
- 7) 綾部貴子, 岡田進一: 居宅介護支援事業所の介護支援専門員によるケアプラン作成の実践構造。社会福祉学, 60(2), 67-77, 2019.
- 8) 口村淳: 認知症高齢者ショートステイの居宅サービス計画書に関する考察: 通所サービスとの比較を通して。龍谷大学大学院研究紀要社会学・社会福祉学, (13), 171, 2006.
- 9) 渡邊浩文, 今井幸充, 鈴木貴子: 認知症の人への居宅サービス計画の説明の実施に関する現状と課題。老年精神医学雑誌, 20(3), 325-334, 2009.
- 10) 松田陽子, 日高紀久江: 遷延性意識障害者の居宅サービス計画書における生活に対する意向と生活上の解決すべき課題(ニーズ)の特徴。医療社会福祉研究, 21, 73-84, 2013.
- 11) 藤原和美: 自立支援にむけた居宅サービス計画の検討—要介護度の経時的変化と要因の調査から—。創発, (4), 31-37, 2006.
- 12) 綾部明江: 要介護高齢者の在宅生活継続に関する影響要因とケアの視点。日本看護学会誌, 27(2), 43-52, 2007.
- 13) 佐々木仁: ケアマトリックスを用いた居宅サービス計画書シミュレーションの一考察。介護支援専門員, 11(2), 44-53, 2009.
- 14) 小原貴子, 服部ユカリ: 介護老人保健施設で暮らす自力歩行が困難な高齢者のいまを支えているもの—ライフストーリーの傾聴から—。老年看護学, 21(1), 38-49, 2016.
- 15) 見平隆: 高齢者ケアにおける施設ケアマネジメントのあり方。名古屋学院大学論集 社会科学篇, 48(1), 103-122, 2011.
- 16) 鐘ヶ江寿美子, 市丸徳美, 千々岩親幸, Richard Fleming, 小泉俊三: 日本語版 Care Planning Assessment Tool の作成と信頼性・妥当性の検討。日本老年医学会雑誌, 45(3), 323-329, 2008.
- 17) 白澤政和: ケアマネジメントの本質—生活支援のあり方と実践方法—。中央法規, 東京, 2018.
- 18) 全国社会福祉協議会: 居宅サービス計画ガイドライン Ver.2—アセスメントから計画作成へのマニュアル付—。全国社会福祉協議会, 東京, 2017.
- 19) 藤井美和: 死生学と QOL。関西学院大学出版会, 兵庫, 2015.
- 20) 窪寺俊之: スピリチュアルケア概説。三輪書店, 東京, 2008.
- 21) 日本社会福祉士会: 社会福祉士の倫理綱領改定(2020年6月30日採択), https://www.jacsw.or.jp/01_csw/05_rinrikoryo/files/rinri_koryo.pdf, [2020]. (2020.10.14確認)

- 22) 岡本宣雄：介護福祉サービスを利用する高齢者の日常的スピリチュアリティに関する研究—語りの分析を通じて支援の課題を問う—。博士論文，川崎医療福祉大学大学院，岡山，2017。
- 23) Underwood LG and Teresi JA：The daily spiritual experience scale: Development, theoretical description, reliability, exploratory factor analysis, and preliminary construct validity using health-related data. *Annals of Behavioral Medicine*, 24(1), 22-33, 2002.
- 24) 竹田恵子，太湯好子：日本人高齢者のスピリチュアリティ概念構造の検討。川崎医療福祉学会誌，16(1)，53-66，2006。
- 25) 三澤久恵，野尻雅美，新野直明：地域高齢者のスピリチュアリティ評定尺度の開発—構成概念の妥当性と信頼性の検討—。日本健康医学会雑誌，18(4)，170-180，2010。
- 26) 井上信次，岡本宣雄，滝口真：介護支援専門員のもつスピリチュアリティとケアプランとの関連に関する研究。日本看護福祉学会誌，27(2)，101-107，2022。
- 27) 岡本宣雄：スピリチュアルケアの視点とソーシャルワーク。熊谷忠和，長崎和則，竹中麻由美編：多面的視点からのソーシャルワークを考える—研究と実践をつなぐ新たな整理—。66-76，晃洋書房，京都，2016。
- 28) 岡本宣雄：要介護高齢者におけるスピリチュアルニーズに関する研究—特別養護老人ホーム入居者の意味探求ニーズ—。先端社会研究，(4)，71-100，2006。

(2023年6月12日受理)

Incorporating Spirituality for People Living in the Community Who Require Nursing Care: Significance and Issues of Care Plans

Nobuo OKAMOTO

(Accepted Jun. 12, 2023)

Key words : spirituality, care plans, care management, QOL, daily spiritual experiences

Abstract

Care Manger are aware of the improvement of Quality of Life (QOL) which is the purpose of care management, and support in-home care support for elderly people requiring nursing care living in the community. Spirituality is one of the elements that make up this QOL, and it is necessary to create a care plan that considers this aspect. From the previous research on the spirituality of the elderly, the spirituality of the elderly to be incorporated into the home service plan was the Daily Spiritual Experiences (DSE). In other words, the content of these spiritualities includes relationships and senses of connection with self, others (friends, relatives, family, etc.), nature and transcendental things (Gods, Buddhas, ancestors, descendants, etc.), religious customs, etc. It included customs, grounds for existence, search for meaning, values, beliefs, hopes, and views on life and death. In order to create an in-home service plan that incorporates spirituality, there are issues to be addressed, such as fostering awareness of spirituality in care managers, evaluating subjective characteristics and achievement levels, and formulating care plans based on ontological thinking.

Correspondence to : Nobuo OKAMOTO

Department of Social Work
Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan
E-mail : nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.33, No.1, 2023 1 - 8)